

みどり と き め き た し か な 未 来 菊 川 市



菊川市

しあわせのわきくがわ
KIKUGAWA CITY

KIKUGAWA

平成29年3月発行

菊川市 企画財政部 企画政策課
〒439-8650 静岡県菊川市堀之内61番地
TEL: 0537-35-0900
FAX: 0537-35-2117
E-mail: kikaku@city.kikugawa.shizuoka.jp
ホームページ
<http://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/>

第2次菊川市総合計画[概要版](2017~2025)

「総合計画」って何ですか？

皆さん、今の暮らしを10年前と比べるとどう変わりましたか？

新しい道路や病院ができて便利になったり、子どもが生まれて保育園に入ったり…。

菊川市の住み心地はいかがですか？暮らしやすいまちになったでしょうか？

さて、これからの10年はどう変わっていくのでしょうか？

その答えを導くものが「総合計画」です。

これは菊川市が未来に向かって「こう変わっていこう」と書いたシナリオのようなもの。

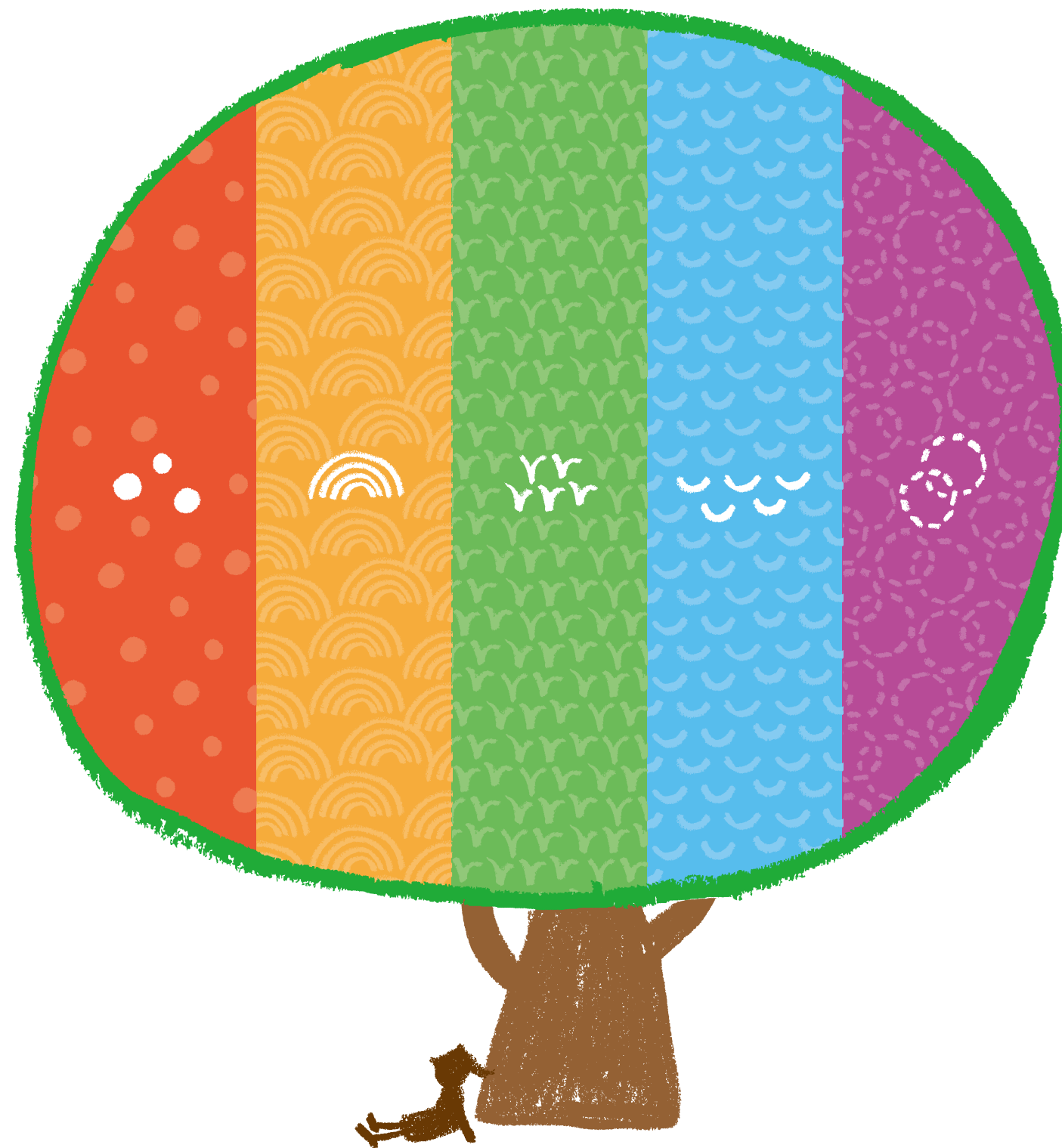
菊川市のこれまでの10年の計画は『第1次菊川市総合計画』といい、このたび、ひと区切りを迎えました。そして、平成29年度から9年間の『第2次菊川市総合計画』がスタートします。

これは、今までの計画のいいところを引き継ぎながら、まちの課題や時代の流れを研究して計画し直したものです。「難しそう」「私に関係あるの？」そう感じるのも無理はありません。

でも、今回は、この計画が「皆さんのためにある」ということを知っていただきたく、分かりやすく編集した概要版をつくりました。

これをきっかけに、菊川市の「総合計画」を知っていただき、皆さんと一緒にまちづくりを考えていくことができれば、たいへんうれしく思います。

※『第2次菊川市総合計画』の全体版は菊川市役所や図書館、菊川市ホームページなどでご覧いただけます。



『第2次菊川市総合計画』のシンボル「イメージツリー」
地球上で最も長寿といわれる生命力を持つ「木」をまちの未来をつくる活力のシンボルとして描きました。その木は共生と協働で生まれ、やがて大樹となり5つの目標が結実します。その緑豊かな木（みどり）のもとに集う菊川市民は自己を拓き交流し（ときめき）、大きな安心感の中で暮し、まちづくりを続け菊川市を未来へつなげていきます（たしかな未来）。

『第1次菊川市総合計画』を
定めてから
10年が経ちました。

今から10年前というと、
平成17年1月に小笠町と菊川町が合併して、
新しく菊川市が誕生しています。
その2年後、合併後の新しいまちづくりの計画として、
『第1次菊川市総合計画』がつけられました。
総合計画に書かれていることは
菊川市と皆さんと一緒に目指してきたものです。
この10年でどう実現されたのでしょうか？
ここではそのうちのいくつかをご紹介します。



掛川浜岡線バイパス

毎日のようにバイパスを使っています。
どこへ行くにも時間が短縮され便利です。
また、車道と歩道の区別が
しっかりしているため、
とっても運転しやすいです。



(主婦 30代 高橋口)

総合計画が実現した暮らし その1

「掛川浜岡線バイパス整備事業」の場合

第1次総合計画 7 安全・便利・快適なまち《都市基盤》

市民の声
通勤や家族での買い物の時に、
バイパスを使います。
趣味のサーフィンや子どもを連れて
海に行くことがあるので、
さらにバイパスが南に
延長してくれると
助かります。



(会社員 40代 赤土下)

中央公民館へ行く時に
バイパスを使います。
小笠図書館や
赤土リサイクルステーションに
行く時にも利用するので、
便利になってよかったです。



(主婦 50代 青葉台丁巳)

J Aや小笠方面の農地に
行くために利用します。
道が広く大きなトラックでも
安心です。



(農業者 40代 沢田)

●事業概要
利便性の向上や産業面での活力の流入、良好な住環境の確保のための交通基盤整備の中で合併後の最重要事業として取り組んできた掛川浜岡線バイパスは、これまでに(平成28年12月31日現在)総延長11.81kmのうち、およそ8.74km(74.0%)を整備しました。

『第1次菊川市総合計画・後期基本計画』7-3道路ネットワークの整備促進
～市内外へスムーズに移動できる道路整備がされたまち～



あかつちクリニック



小笠児童館

総合計画が実現した暮らし その2

「家庭医養成プログラム推進事業」の場合

第1次総合計画 2 安心していきいき暮らせるまち《福祉・健康》

市民の声
菊川市立病院より
待ち時間が少なくて
助かっています。
子どもの予防接種でも
利用しています。

(会社員 20代 西袋)

菊川市立病院に掛かっていたが、
あかつちクリニックが近くできて
非常に助かっています。
先生方がとても親身になって
対応してくださるので、
本当にありがたいと思っています。

(70代 志茂組)

●事業概要
安全・安心な医療の提供のための医療機能の強化を目的に「家庭医の養成とグループ診療の拠点」として開設。常時数名の家庭医がグループにより、乳児から高齢者まで家族ぐるみの健康管理を幅広く行っています。

『第1次菊川市総合計画・後期基本計画』2-7地域医療体制の充実
～市民に質の高い医療サービスが提供できるまち～

総合計画が実現した暮らし その3

「子育て支援センター・児童館運営事業」の場合

第1次総合計画 2 安心していきいき暮らせるまち《福祉・健康》

市民の声
家から近いので
よく利用しています。
職員の方が親身に相談に
乗ってくれるので
非常に助かっています。

(主婦 20代 上本所)

頻りにイベントが開催されていて
親子共々楽しく
参加させてもらっています。
菊川市出身でなくても、
訪れやすい雰囲気でありがたいです。

(主婦 20代 白岩下)

●事業概要
子育てしやすいまちを実現するための子育て世代に対する支援事業。『ブラザケヤキ』内に菊川児童館を移転し、『小笠児童館』を新たに整備。館内には子育て支援センターを設置して、相談業務などの充実を図りました。子育て支援の拠点として利用いただいています。

『第1次菊川市総合計画・後期基本計画』2-3子育て支援体制の充実
～安心して子どもを育てられるまち～

菊川市の「いま」を知る

『第2次菊川市総合計画』づくりの背景

時代背景

- 1 少子高齢化・人口減少、地方創生の取組
- 2 環境負荷に配慮する社会
- 3 地域経済をとりまく環境の変化
- 4 高度情報化の進展
- 5 加速する高齢化への対応
- 6 安全・安心意識の高まり
- 7 教育や子育てに対する関心の高まり
- 8 地域の歴史、文化、景観の再認識
- 9 市民参画、協働・共創意識の高まりと多様な人材の活用
- 10 公共施設等の更新時期の到来

数字で見る菊川市

総人口 **47,823人** 世帯 **16,811世帯**

※平成28年3月31日現在

面積 **94.19 km²**

※平成28年1月1日現在

- 農用地 **37.45%** (35.28km²)
- 山林・原野 **27.05%** (25.47km²)
- 宅地 **11.80%** (11.12km²)
- その他 **23.70%** (22.32km²)

1. JR東海道本線菊川駅乗車人員 **156.5万人**
 2. 観光交流人口 **36.4万人**
 3. 外国人数及び比率 **2,609人** (5.5%)
 4. 東名高速道路菊川インターチェンジ交通量 **2,270,135台**
- ※1~4平成27年度実績

第1次総合計画時との比較 ※平成17年、27年国勢調査

- ◎人口 **1.56%** 減少 (739人減少)
- ◎世帯数 **9.5%** 増加 (1,397世帯増加)
- ◎年齢別人口
 - ・高齢人口(65歳以上) **23.5%** 増加 (2,225人増加)
 - ・生産年齢人口(15~64歳) **9.13%** 減少 (2,831人減少)
 - ・年少人口(0~14歳) **3.6%** 減少 (255人減少)



意識調査より

- 一般市民**
 - 菊川市の魅力 「自然・緑」、「茶」、「交通利便性」
 - 住みやすさの評価 「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」との合計が**約7割**
- 企業**
 - 「企業活動が行いやすい」と「どちらかといえば企業活動が行いやすい」との合計が**約6割**
 - 課題…「利益率の低下」や「人材の確保」など
- 団体**
 - 「活動しやすい」が**約5割**
 - 課題…「若い人の参加が少なく、役員等の高齢化が進んでいる」「会員数が増えない、減っている」など
- 自治会**
 - 「活動しやすい」が**約4割**
 - 課題…「役員の負担が重く、なり手が少ない、又は役員選出の調整が難しい」「定期的な地域活動やイベントへの参加者が少ない」「活動に若い人の参加が少ない」など
- 中学生**
 - 「住みやすい」「まあまあ住みやすい」との合計が**約8割**
 - 将来も菊川市に「ずっと住み続けたい」「市外に出ると思うがいずれは戻りたい」の合計は**4割**
- 高校生**
 - 「住みやすい」「まあまあ住みやすい」との合計が**約7割**
 - 将来も菊川市に「ずっと住み続けたい」「市外に出ると思うがいずれは戻りたい」の合計は**約2割**
- 大学生**
 - 「住みやすい」「まあまあ住みやすい」との合計が**約8割**
 - 将来も菊川市に「住み続けたい(戻りたい)」「どちらかといえば住み続けたい(戻りたい)」の合計は**約7割**

まちづくりの課題

時代背景や菊川市の現況と特徴、市民意識調査の結果などを踏まえ、菊川市のまちづくりの主な課題を以下に整理します。

- 課題1 … 家族形成世代の暮らしの安定を保つ
- 課題2 … 少子・超高齢社会に応じた社会環境の再整備
- 課題3 … 既存産業・特産物を活かした地域振興
- 課題4 … 便利で安全・快適な市街地の形成
- 課題5 … 「菊川文化」の醸成と外部に向けた情報発信
- 課題6 … 自助・共助・公助による安全安心な環境づくり

9年後の菊川市にむけて

『第2次菊川市総合計画』基本構想

さて、菊川市の「いま」が見えましたか？

菊川市は、そこから市の理想の未来の姿「将来像」を設定しています。

それは、まちづくりの根本的な考えかたである「基本理念」が土台となっています。

さらに、「将来像」を実現するための基本目標ができ、

その目標に対して具体的な計画がつけられています。

将来像 … 菊川市の将来像は、まちづくりの基本理念を踏まえ、次のように設定します。

みどり ときめき たしかな未来 菊川市

みどり

多くの市民が本市の魅力と感じている、あふれる自然など次世代に引き継ぐべきふるさとの素晴らしい環境をイメージしています。

ときめき

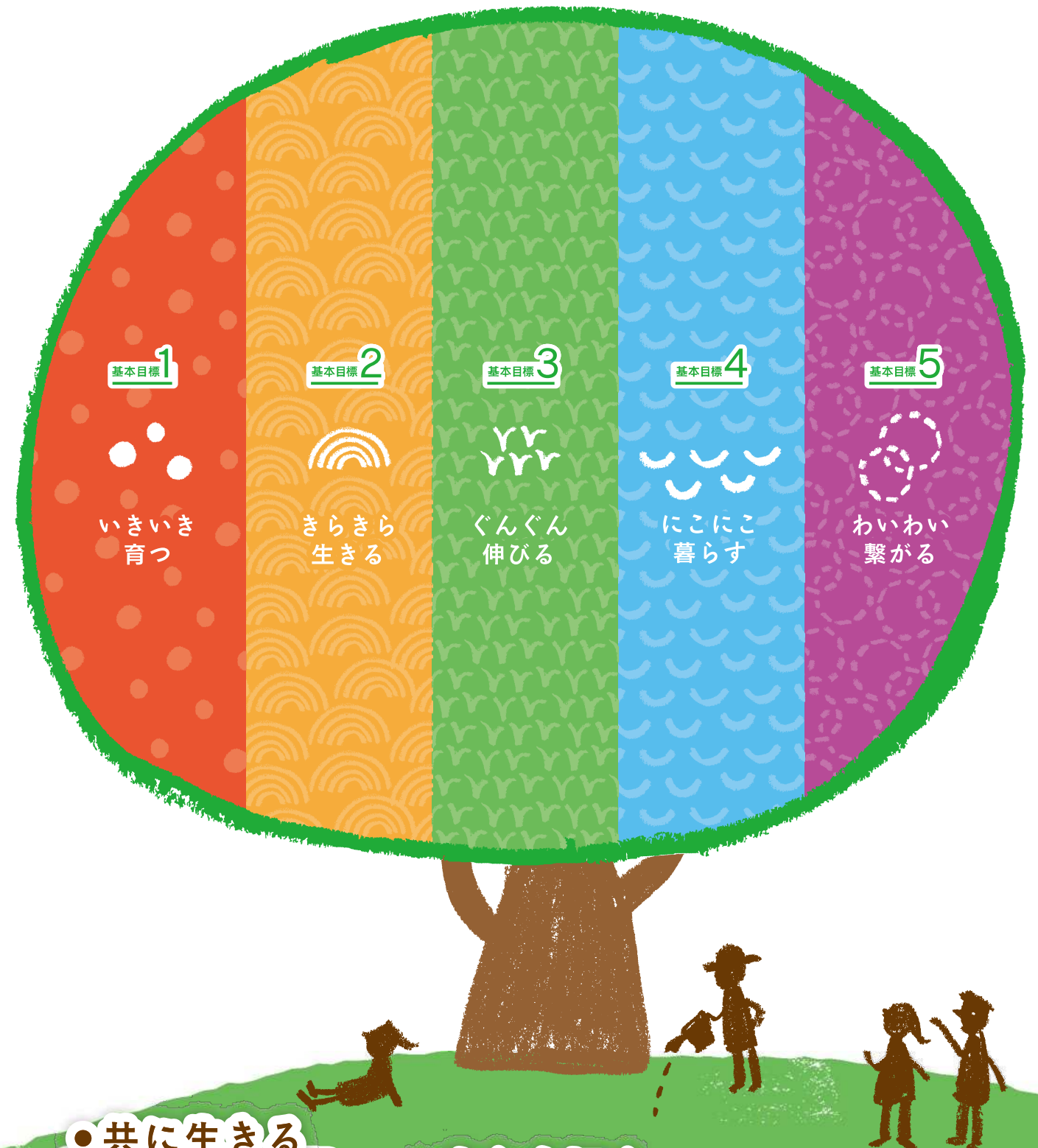
市民一人ひとりが未来へ希望を持ちながら、豊かにいきいきと人生を送ることができ、活発で活力ある人々の心躍る様子をイメージしています。

たしかな未来

素晴らしい環境のなかで、本市がこれからも、安定的に活力があるまちづくりを続け、未来へ繋げていくことをイメージしています。

まちづくりの 基本理念

平成17年合併時の理念を今後も受け継ぐため、第1次菊川市総合計画のまちづくりの理念を継承していきます。



●共に生きる

《共生と協働》

市民と豊かな自然環境が共生し、市民と行政が互いの役割分担を認識し、顔のみえる関係を保ちながら協働するまちづくりを目指します。そのため、地域が自らの意思と責任で行動し、互いに協調・協力して地域のために活動することを重視します。

●自らを拓く

《自立と交流》

安心して暮らせることはもとより、特色がある魅力的なまちづくりを目指します。そのため、市民が生涯学習や幅広い分野での交流を実践して、自らのより豊かな知恵と創造を拓くことを重視します。

●未来へ歩む

《継承と発展》

ふるさとの「よさ」を再発見し、誇れる資源を活かし、長い歴史のなかで受け継がれた伝統文化や形成された技術をたたえ、継承し、新たな発展を加えて、未来に向かって確実に進歩することを重視します。

みんなの未来を実現するために

『第2次菊川市総合計画』 基本目標とその取り組み

菊川市の将来像の実現に向けて、人口目標を設定し将来都市構造のありかたを示しています。

そのうえで、各分野で取り組むまちづくりの基本的な方向性を示すため、

5つの目標を掲げます。

それぞれの目標には達成するための具体的な取り組みがあります。

ここではその概要を紹介します。『第2次菊川市総合計画』全体版では基本目標ごとに

「政策」、「現状・課題」と「取り組みの方向」などが記されています。

目標人口 **45,000** 人 平成37年(2025年)

基本目標



基本目標 1



子どもが いきいき育つまち

子育て
教育

子どもが健やかに育つ環境の整備はもとより、経済的な子育て支援や母子保健の充実など、安心して子育てができるまちを目指します。

また、小中一貫教育、総合的な学習の時間やICTを活用した授業など、次世代を担う子どもたちに、これからの社会において必要となる、たくましく「生きる力」が身に付く教育環境が整備されたまちを目指します。

あわせて、地元への愛着を育むキャリア教育などを実施することで、市内で育った子どもたちが本市に暮らし、子どもを産み育て、住み続ける魅力があるまちを目指します。



1 安心して子育てができ、
子どもが健やかに育つまちづくり

2 親と子が健やかに
成長できるまちづくり

4 子どもの「生きる力」を育む
まちづくり

3 安全・安心な教育環境が
整ったまちづくり

5 人を育み、若者を育てる
まちづくり

基本目標 **2**



健康で元気に 暮らせるまち

保健
福祉
医療
社会教育

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らしていけるよう、健康づくりや介護予防への参加を促し、福祉・保健・医療・地域など関係機関の連携による、切れ目のない医療や介護を受けられる環境を整えるとともに、障がいなどの有無によって分け隔てられることなく、尊重し合いながら共生するまちの実現を目指します。また、子どもから高齢者まで市民だれもが健康で活動的に暮らせるよう、健康寿命の延伸などの健康増進や医療の充実、生涯学習活動との連携により、市民自らが積極的に健康づくりや生きがいづくりに取り組むまちを目指します。



- ① 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり
- ② 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり
- ③ 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり
- ④ 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり
- ⑤ 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり
- ⑥ 生涯にわたり学べるまちづくり
- ⑦ 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり
- ⑧ スポーツが盛んなまちづくり

基本目標 **3**



活気にあふれ地域の良さを 伸ばすまち

産業

温暖な気候や広い農用地面積などの特徴を活かし、高収益作物との複合経営による儲かる次世代農業や、次世代を担う人材育成、農業女子が輝けるプロジェクトなどの、菊川型農業モデルの創出を目指します。

また、市内に立地するJR東海道本線菊川駅、東名高速道路菊川インターチェンジ、近接する富士山静岡空港、JR東海道新幹線掛川駅、御前崎港など、産業や物流、交流の拠点となる施設を効果的に活用し、商業振興、企業誘致、観光資源の掘り起しなどに取り組み、人、ものの流れが活発で、誰もが活躍できる活気にあふれるまちを目指します。

- ① 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり

- ② 活力と魅力のある茶のまちづくり

- ④ 人が訪れるまちづくり

- ③ 商工業が活気あるまちづくり

- ⑤ 消費者が安心して暮らせるまちづくり



基本目標 **4**



快適な環境で
安心して暮らせるまち

防災
環境
社会資本整備

大規模地震や大雨などの自然災害等に備えるため、施設や住宅の耐震化、計画的な河川改修などを進めるとともに、避難体制の強化を図ります。また、市民の防災活動への参加を促進し、災害に強いまちを目指します。

JR東海道本線菊川駅北側など、本市が持つポテンシャルを活かし、豊かな自然と良好な住環境が共存した、快適で安心して暮らせるまちを目指します。

良好な自然環境の保全、地球温暖化対策や新たなエネルギーの活用など、環境負荷に配慮したまちづくりを進め、良好な環境を将来へつなぐまちを目指します。



① 防災力を高めるまちづくり

④ 豊かな自然や住みよい環境を
未来へつなぐまちづくり

② 交通事故・犯罪のないまちづくり

⑤ 良好な住環境や道路・公園を
次世代に引き継ぐまちづくり

③ 消防力を高めるまちづくり

⑥ 上水道が安全に安定して
供給されるまちづくり

基本目標 **5**



まちづくりに
市民と行政が
共に取り組むまち

コミュニティ
自助
共助
公助

市政情報の積極的な発信や、市民と行政がお互いに協力して取り組む「協働」、民間企業、関係団体、学校などと行政が連携を深め、それぞれが持つ知恵や力を結集させ取り組む「共創」のまちづくりを目指します。性別や国籍に関係なく、誰もが暮らしやすい環境づくりなど、基本的な人権を尊重するまちづくりを目指します。人口減少に対応するため、定住促進に向け、市内外の人々を惹きつける魅力があるまちを目指します。また、公共施設の老朽化が進むなか、多様なニーズに対応し施設を提供できるよう、公共施設マネジメントの視点を重視した、効率的な行財政運営がされているまちを目指します。

① 市民と行政との
協働によるまちづくり

③ 性別、国籍を超えた
共生社会を推進する
まちづくり

② まちの元気・魅力が
発信されるまちづくり

④ 未来に向かって
行財政機能を高める
まちづくり

